

七三だより 脇号

令和2年11月16日
京都市立七条第三小学校
校長 土田 圭子

学校教育目標
わたしとあなたの「なりたい自分」共にめざそう かなえよう
~自信をもって 認め合って 補い合って~

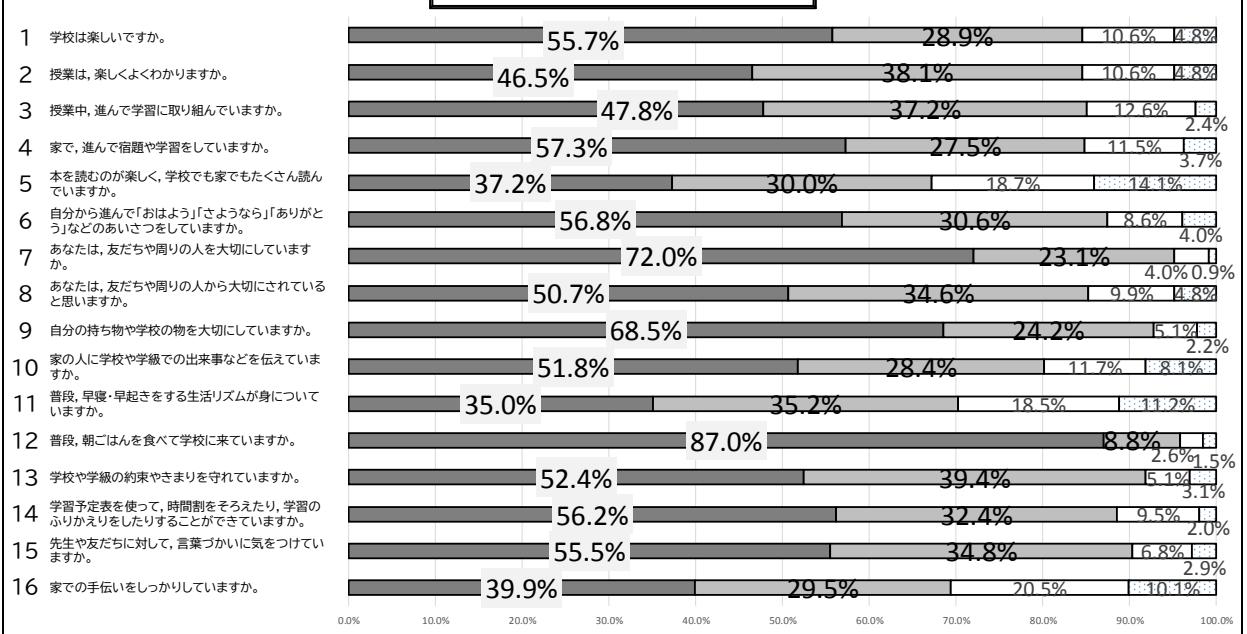
第1回学校評価アンケート
の集計結果について

グラフの見方

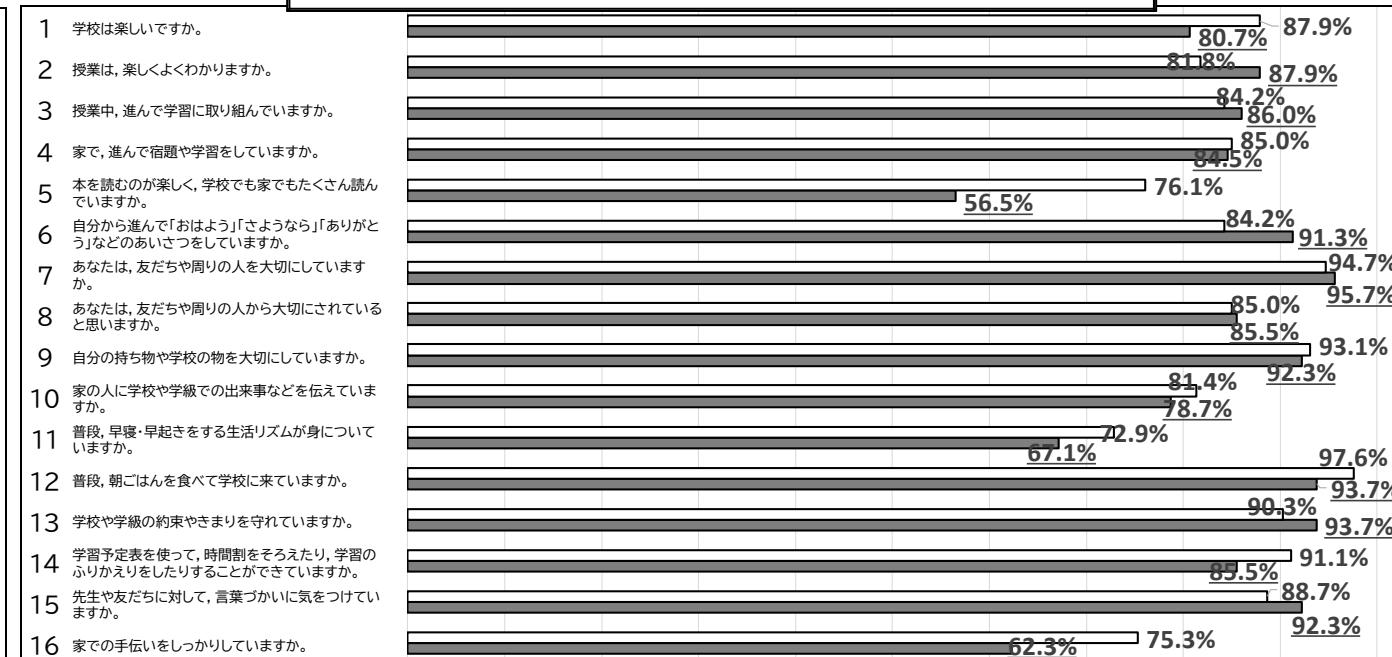
そう思う	大体そう思う
あまりそう思わない	そう思わない

秋冷が爽やかに感じられる季節になりました。日頃から本校教育活動にご理解・ご支援を頂きありがとうございます。さて、今年度第1回学校評価アンケートの集計結果についてお知らせします。のべ442名(97.1%)の保護者の方からの貴重なご意見と児童・教職員のアンケート集計結果を分析してまとめています。お忙しい中、学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。

児童全体の結果



低学年と高学年の比較(そう思う+大体そう思う)



児童全体のアンケートより

児童全体の結果で、「そう思う」「大体そう思う」の割合が90%を上回る項目が5つありました。<7.相手を大切に95.1%, 9.物を大切に92.7%, 12.朝ごはん95.8%, 13.約束やきまりを守る91.8%, 15.言葉遣い90.3%>

また、「そう思う」「大体そう思う」の割合が80%を下回る項目は3つありました。<5.読書67.2%, 11.早寝早起きの生活リズム70.2%, 16.家の手伝い69.4%>

約3ヶ月の臨時休校の影響が心配されました。子どもたちは比較的生活リズムを取り戻し、元気に学校に来ています。周りの人とともに社会生活を送るうえで当たり前に大切にしたいこと(きまりを守る、相手を大切にする等)は子どもたちも意識して行動しようとしている様子が伺えます。

2学期以降、感染症感染拡大防止の対策を行なながら、様々な活動の制限を段階的に緩和しています(部活動や運動・音楽等の活動)。色々な活動の中で、子どもたちもとてもいきいきとした姿を見せててくれています。何ができるのかが分かってくると、自分たちからすすんで計画を立てたり準備や片付けを行ったりと機敏に行動している姿が印象的です。少しずつ関わりを広め深めながら、「自分も人も大切にする」経験を増やし、主体性や自己有用感を育んでいきたいと思います。

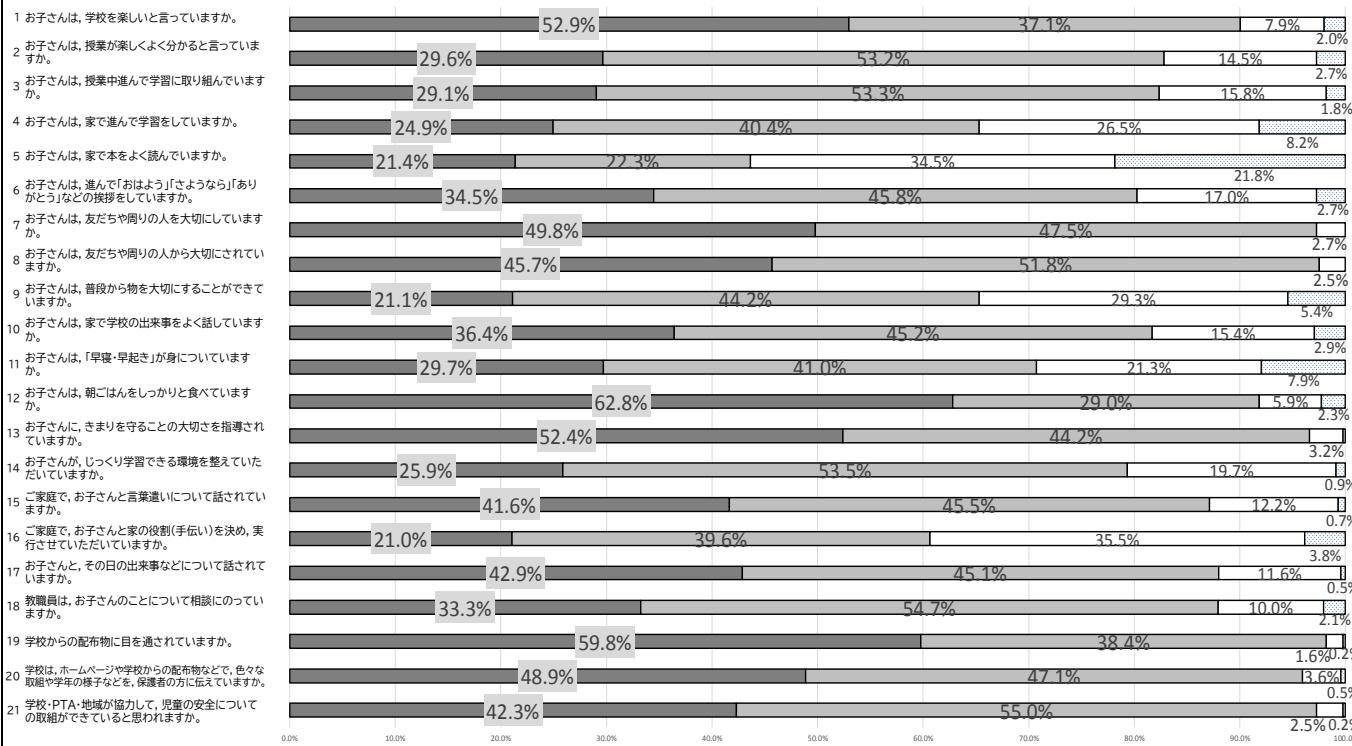
低学年と高学年の比較より

低学年が高学年より「そう思う」「大体そう思う」の割合が5%以上上回る項目が5つありました。<1.学校の楽しさ, 5.読書, 11.早寝早起きの生活リズム, 14.予定表を使った準備やふりかえり, 16.家の手伝い>

また、高学年が低学年より「そう思う」「大体そう思う」の割合が5%以上上回る項目が2つありました。<2.授業の楽しさ・理解, 6.挨拶>

低学年の段階では、体験することのほとんどが新しく魅力的で、純粋に興味をもつたりがんばろうとしたりするので、学校に行くこと自体が楽しく思えるのでしょうか。また、おうちの方と一緒に取り組むことも多く、読書や生活リズム、次の日の準備や家での手伝いなども「できた」と達成感をもつことが多いのではないかと思います。一方、高学年になるにつれて、今までの経験をもとに行動することが多く、個人の差ができやすいのではないかと思われます。さらに、高学年になるにつれて、自我の芽生え、思春期や反抗期等の精神面や、習い事や家の過ごし方、ゲームや携帯電話などの扱い等、様々なことについて個々の関わりの難しさも関係しているのではないかと考えられます。

また、高学年だからこそ、いろいろな経験を重ねたり物事の理解を深めたりする中で、学習に対する理解や苦手な部分への対応力、挨拶や言葉遣いなどに見られる社会との関わりにおいて、低学年のときよりも心も体も成長していることが伺えます。

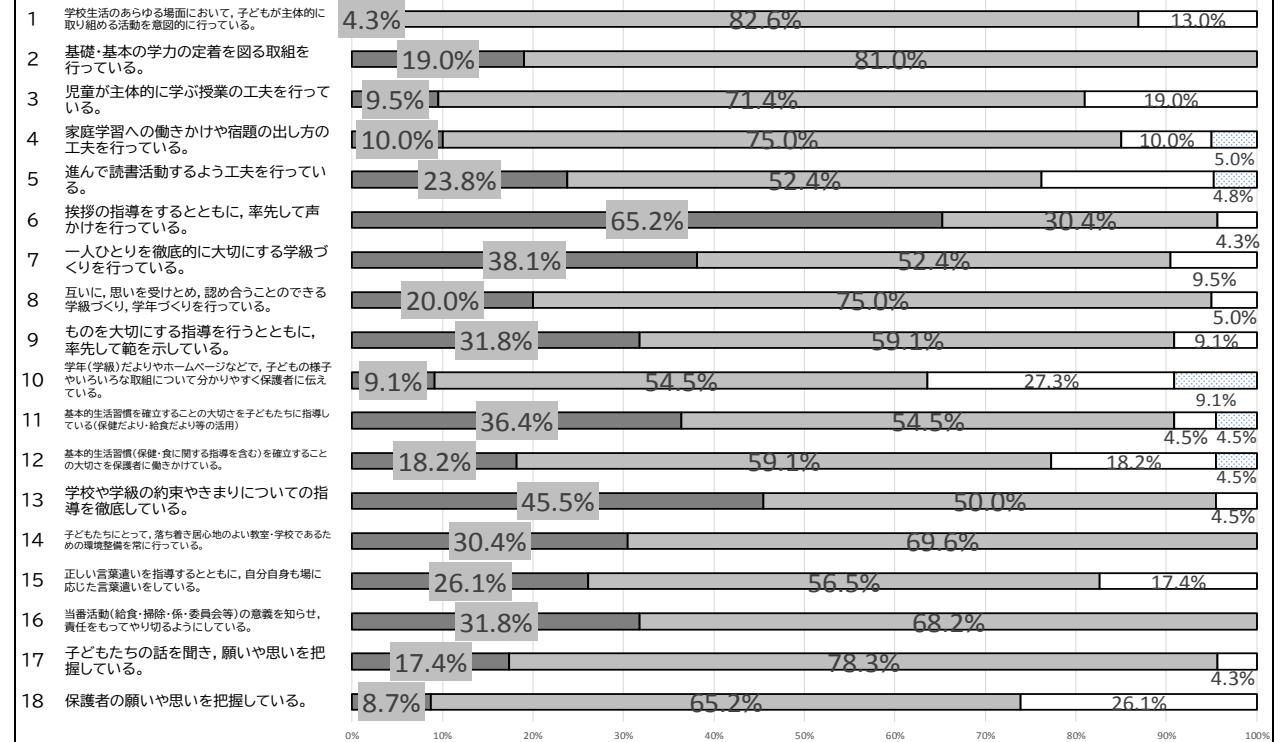


保護者アンケートより

「そう思う」「大体そう思う」の割合が90%を上回る項目が8つありました。<1.学校を樂しいと言っているか 90.0%, 7.周りの人を大切にしているか 97.3%, 8.周りの人から大切にされているか 97.5%, 12.朝ごはん 96.8%, 13.きまりを守ることを指導 96.6%, 19.配布物の確認 98.2%, 20.HPや配布物での取組の伝達 96.0%, 21.学校・PTA・地域が協力した安全についての取組 97.3%>。

また、「そう思う」「大体そう思う」の割合が80%を下回る項目は4つありました。<4.家で学ぶ 64.9%, 5.読書 43.7%, 11.早寝早起きの生活リズム 70.7%, 16.家の手伝い 60.6%>

人を大切にすることやきまりを守ること等、社会性を身につけるための大切なことをご家庭でしっかりと意識して育てていただいていることが結果にも表れています。また、学校からお伝えしたことをしっかりと受け止めていただくことで、学校・PTA・地域が協力して子どもを育むことができていると考えられます。しかし、読書や早寝早起きの生活リズム等は、ご家庭での生活の仕方に大きな影響を受けていると思われます。まずは大人がその姿を見せることで子どもたちも真似たり素直に聞き入れたりするのではないかでしょうか。引き続きご家庭での厳しくも温かいお声かけをお願いします。



教職員アンケートより（「そう思う」「大体そう思う」の割合の合計）

<2.基礎基本の学力の定着を図る取組、14.教室・学校の環境整備、16.当番活動の指導が100%，6.挨拶の指導、8.思いを受けとめ認め合う学級や学年づくり、13.約束やきまりの指導、17.子どもの話を聞くが95%以上>という結果になりました。

学校教育目標を達成するために、子どもに寄り添い一人ひとりを大切にして資質能力を育てようとしているところですが、よりいっそ子どもの見本となる教職員であるために、常に意識してこれからも行動していきたいと考えています。

一方で<10.おたよりやHP等で子どもの様子を伝える63.6%，12.基本的生活習慣の確立についての保護者への働きかけ77.3%，18.保護者の願いや思いの把握73.9%>と保護者の皆様との関わりやつながりがまだ十分であるという結果になりました。今年度は感染症感染拡大防止のためとはいえ、家庭訪問や授業参観、懇談会などが十分に行えていないことも原因の一つと考えられます。子どもの成長を安心して見守っていただけるように、もっと主体的・意欲的に学校から子どもの輝きを発信していきたいと思います。



京都はぐくみ憲章

今後の方向性と取組について

いろいろなアンケート結果から、割合が高かったところはそこで満足せず、割合が低かったところは更なる向上に向か、子どもの些細な変化を見落とさないよう教職員一丸となって情報共有しながら、「みんなでみんなを育てる」よりよい学校教育活動を進めていきます。社会状況を見ながらではあります、今だからこそできる経験や学びを深め、自分も人も大にできる取組として何ができるのか、知恵を絞っていきたいと考えています。更に、子ども一人ひとりに寄り添いながら、自己実現に向けて子どもの資質能力を育成する従来からの取組を大切にするとともに、GIGAスクール構想等子ども一人ひとりに合わせた学びを構築する授業改革や工夫を行っていきます。また、子どもを育てるためには、学校だけでなく家庭・地域の皆様のご協力が必要です。これからも子どもたちの学力向上や健全育成のために、学校・家庭・地域との連携を深めていきたいと思います。